ライブラリーマネジメント・ゼミナール２００４
～ライブラリーの活性化をめざして

取り上げたテーマと内容

第１回　「図書館を創る～これからの図書館サービスを創る：「せんだいメディアテーク」を事例に～　　講師：奥山恵美子（仙台市市民局次長・元せんだいメディアテーク館長）

● テーマのねらい

　一つの新しい図書館を作りあげていくプロセスの中で、どういうマネジメントが必要なのか、21 世紀を展望した新しい情報受発信施設として注目されている「せんだいメディアテーク」の建設準備から事業展開までの活動を事例にして学ぶ。

● 講義のポイント

講師は仙台市職員として、「せんだいメディアテーク」の建設準備から立ち上げに関わり，初代館長をつとめた人である。氏は行政職員として外から図書館を見る眼と、図書館の新たな活動を創る内の立場の両方の目線で、“図書館”と“メディアテーク”を対比させながら、その自治体の目玉となる新しい情報受発信基地のあり方についての問題提起をされた。

●参加者のコメントより

“ポリシーをはっきり持つ、それを内外にしっかり伝えることの必要性をあらためて感じました”、“行政職にたいする意識がかわりました”、“図書館員という枠をはずした発想を目のあたりにできた”、“正に全体を見てマネジメントをする実例です”、“既成概念にとらわれず、いろんな人の力、町の力を利点として活用する戦略が印象的”、“10 年後の私の目標とする管理職のイメージを具体的に持たせていただきました“、“忌憚なく話していただき、経営が大変と思っていたのが少し楽しくなった”

第２回　「コレクションを創る～方針と活動～」講師：尼川洋子

● テーマのねらい

コレクションは図書館が提供するあらゆるサービスの中核であるという認識にたって、コレクション・ディベロップメントをマネジメントの視点でとらえる。事例報告を通して、一つの図書館の中で新たなコレクションが立ち上がっていくプロセスとコレクション形成を推進する方策を学ぶ。

● 講義のポイント

図書館にとってコレクションはボディであり、心臓であり、顔、チャームポイントでもある。図書館は“店”に似ている。図書館員は“店員”で、コレクションは“品揃え”。コレクション・ディベロップメントのプロセス、そのポイント、コレクションの見せ方、ＰＲの方法など。

事例報告：**「震災文庫」の設立と公開**　発表者：稲葉　洋子　（国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課長）

阪神・淡路大震災の３ケ月後、学外からの「震災資料を網羅的に見れる所はないか」という問い合わせをきっかけに、神戸大学人文社会系図書館の中に「震災文庫」という新たなコレクションが創られた。収集活動、資料の公開方法、外部資金の導入、外部組織とのネットワーク等、大学図書館のコレクション・ディベロップメントの新たなチャレンジなど。

● 参加者のコメントより

“コレクションの役割と図書館の役割を深く考えさせられました”、“具体的でコレクション構築の楽しさ可能性が伝わってきました”、“内容と同様に、レジメのまとめ方、それにそった話し方が参考になりました”、“予算要求の説明で使えるなと思いました。まとめていただいたように、理論だってなぜ必要か、どのように計画しているのかなど説明ができそうです”。

事例報告について“上司、教員、組織（学内外）の理解、協力をとりつけた企画・実行力が参考になりました”、“図書館外の方とのコミュニケーションのとり方、企画力の必要なことが分かりました”、“補助金獲得の手法、PR の重要性、時機をとらえる大切さが印象的”。

第３回　「マネジメントのツール：業務フロー～スタッフのチームワークの促進～」

講師：尼川洋子

●テーマのねらい

図書館業務の広がり、予算・人員の削減、アウトソーシング等、図書館運営の変化に対応して、業務のマネジメントが図書館員の仕事として必要不可欠になってきている。そのツールとしての業務フロー作りを提起する。

● 講義のポイント

業務マネジメントの目的と内容、業務マニュアルの必要性と役割、業務フロー作成の意図と効果。

● 参加者のコメントより

“業務を把握するためのツールとして、フローは一つの有効な手段だと思う。マニュアル作成の必要性もわかったので、早速作ってみたい”、“マニュアルはただフローを書くだけでなく、他業務や方針・計画等も視野に入れたものであることが分かった”、“仕事を楽にするためのマニュアル作りなのだとしっかり認識できました”、“業務マニュアルはまず担当者が作り、それを全員で共有する点が参考になりました”。

第４回　「パブリック・リレーション（ＰＲ・広報）～戦略的パブリック・リレーション～」講師：尼川洋子

●テーマのねらい

図書館のパブリック・リレーションの必要性、戦略的な展開のために必要な視点、手法を明らかにする。事例報告からＰＲの実際を学ぶ。

● 講義のポイント

ＰＲ戦略を考える前提（設置目的、社会的位置、コレクションの特徴、PR 対象、到達目標、スタッフの意識の変革）、ＰＲの留意点（positive thinking、“仕掛ける”発想、目標の明確化、方法・手段の具体化、効果の評価）、ＰＲプロセスでの資源化。

事例報告：利用者拡大のための具体的方法　発表者：大林弘子（とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ）

「とよなか男女共同参画推進センター　すてっぷ情報ライブラリー」の利用者拡大の多様な取り組みが紹介された。利用者を①すでにライブラリーを利用している人　②センターの利用者（講座受講生等）　③潜在的利用者にセグメントし、それぞれのターゲットに合わせたＰＲがサービスとセットにしてなされているのが特徴である。

●参加者のコメントより

“図書館活動の全てが PR である。PR の材料はいっぱいあるということが良く分かりました”、“仕掛けるという発想が面白い”、“PR は戦略的にということが参考になった。業務に生かしていきたい”、“PR は基本業務だということが分かった”、“ターゲットを絞る大切さを知った”、“できているところをＰＲという発想が positive だ”。

事例報告について、“ＰＲ作業の具体的事例が理解できた”、“潜在的利用者にも働きかけを積極的に行われている点や、利用率等でＰＲの評価を行われている点がとても参考になった”、“利用者別セグメンテーションに分けて対策を考えておられることが参考になりました”。

第５回　「マネジメントと評価」

講師：結城美恵子　（有）インフォメーションプランニング代表」

●テーマのねらい

マネジメントと評価の関係を明らかにし、評価のプロセス、求められるマネジメント・評価スキルについて学ぶ。演習を通して自らがマネジメントする立場で、図書館をデザインしてみる。

● 講義のポイント

マネジメントとは変化への対応、マネジメントと評価は一対、社会環境の変化と組織のミッションを考慮し、人財・施設・業務活動・情報・時間・予算のマネジメントをし、そ

れを評価する。立場によって異なるスキル（トップは“変化を創る”、管理職は“変化を推進する”、一般職員は“変化への迅速な対応”)、評価のプロセス。

演習：創設図書館をデッサンする

①都市環境　②地域の図書館環境　③立地条件を一定に設定して、グループワークでそれぞれに“私たちが作るライブラリー”をデザインし、プレゼンテーションを行なった。

●参加者のコメントより

“「マネジメントとは変化にいかに対応するのかということ」ハッとさせられました”、“短い時間内にマネジメントの基本を教えて頂いた”、“マネジメントがしっかりしていないと評価もできないと理解できました”、“平、管理職、TOP、の仕事の違いが分かりました”、“利用者の変化を読みとるアンテナを高くし、問題意識を持つことが必要と痛感”。